

討する。克服すべき課題を抽出し、解決策を検討する。

- ・2023年（平成35年福祉用具法改正）のタイムラインに配慮して、15年後の車いすの利活用のあり方を検討し、システムを実現するための制度的、技術的なロードマップを関係者とともに作成する。

3) 実施計画の概要

フォーサイト・プロセスは、8段階から構成する（図1、表1参照）。

表1 車いすフォーサイトの実施計画

フェーズ	目的
1) 文献レビュー	車いすの利活用と関連する先行研究の分析を通し、既存の知識を整理する。
2) 専門家パネル（車いすワーキング・グループ）	車いすの利活用に関わる有用な情報をもつ専門家を集めて会合を持ち、議論・分析する。
3) インタビューによるステークホル	フェーズ1, 2の成果をもとに質問票を作成し、ステークホルダ

ダー分析	一に個別にインタビューを実施して、課題や要素の詳細を探る。
4) ステークホルダーごとのグループ・ディスカッション	フェーズ3で抽出されたシナリオ案をもとにして、ステークホルダーごとに、課題、ニーズの優先順位づけ、解決策の深掘り、シナリオ案の修正を行う。
全体シナリオの設定	ここまでの段階で得られた知見、ステークホルダーごとのシナリオ案を全体的なシナリオへ統合する。
5) ステークホルダーワークショップ（未来ワークショップ）	フェーズ4で修正したシナリオ案をもとに比較的小人数で討論し、シナリオ案を改善する。この段階で、ステークホルダーごとのロードマップの素案も組み込む。
6) アンケート（質問紙調査）	フェーズ5の結果に基づいて修正したシナリオ案をもとにアンケートを作成して実施し、シナリオの妥当性を吟味する。
7) ロードマップ案の作成	ロードマップ案を作成する。
8) 全体ワークショップ	ロードマップ案の作成と関連する問題点の提示、提言の作成

※詳細は平成23年度報告書参照

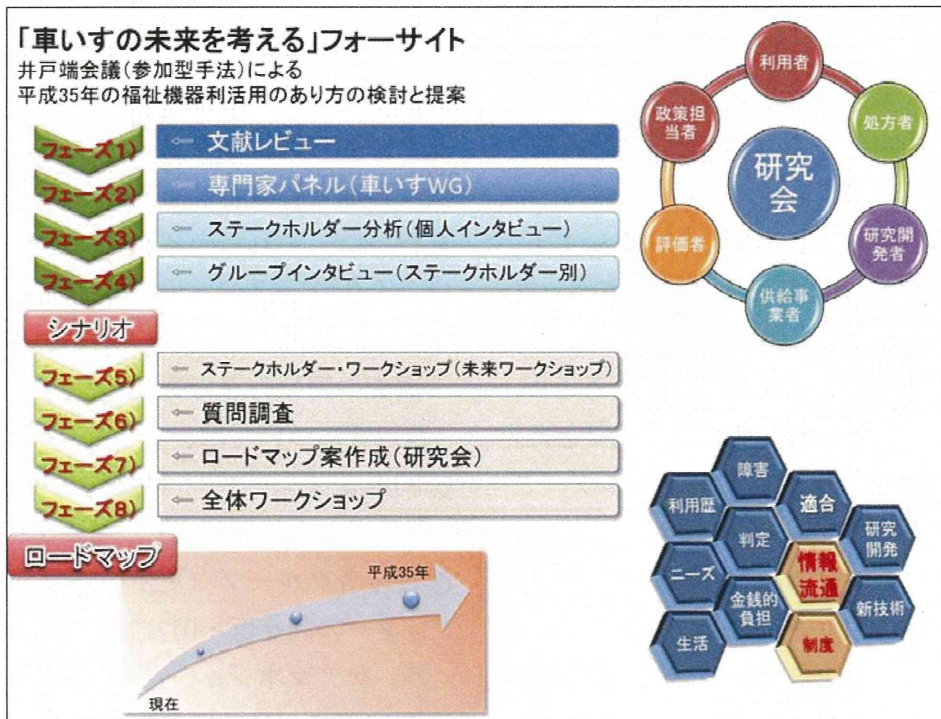


図1 実施計画の概要

本年度はフォーサイト参加者の時間的制約等を勘案し、一部のプロセスを修正の上で、実施し、最終的には「車いすの未来を考える」ワークショップを開催し、参加者によりロードマップを作成した。

(2) 実施過程の概要

上記実施計画のうち、フェーズ2の専門家パネルは車いすワーキング・グループの活動により代替している。

フェーズ3のインタビューによるステークホルダー分析については、一部を昨年度中に実施しており、今年度は残りのインタビューを実施した。とくに、全体ワークショップ参加者に関しては、全体ワークショップに関する説明と併せて、インタビューを実施することにより、ステークホルダー分析を進めた。

フェーズ4のステークホルダーごとのグループ・ディスカッション、フェーズ5のステークホルダーワークショップ(未来ワークショップ)に関しては、遠方の参加者も多数いるため、参加者が一堂に会する時間をとることが困難であることから、それぞれの目的に併せたアンケート調査を繰り返し実施し(フェーズ6に統合)、その都度結果をフィードバックする方式で補った。対面式ではないが、すべての参加者が意見を表明できるという長所があり、初期の目的は達成できた。

なお、フェーズ4のステークホルダーごとのグループ・ディスカッションとフェーズ5のステークホルダーワークショップのあいだに取りまとめる予定だった全体シナリオ、およびフェーズ7のロードマップ案の作成に関しては、実施しないこととした。アンケートの整理によって

必要な素材は揃い、参加者間で共有されていたが、アンケート調査の結果が必ずしも特定のシナリオを支持しているとは考えられなかったため、特定のシナリオに限定することはせず、選択肢を残したまま全体ワークショップでさらに議論を進めることとした。

2012年7月末までにフェーズ3を終了、2012年8月1日からアンケートとフィードバックを3回実施、2012年10月7、8日に全体ワークショップを開催した。

実施内容の詳細は次項以降にまとめる。

C. アンケートの実施とその結果

(1) インタビューによるステークホルダー分析(フェーズ3)および全体ワークショップの参加者の確定

昨年度に引き続き、各種ステークホルダーのインタビューを実施するとともに、全体ワークショップの参加者を確定し、参加予定者に対して可能な限り、プロジェクトの目的、全体ワークショップの説明を対面で行うとともに、インタビューを行った。これらのインタビューの結果は、全体ワークショップ参加者のための事前情報として整理し、次項のアンケート調査の開始時点で提供した。

参加者については、

- ①利用者グループ (電動・手動車いす利用者、介護関係者)
- ②処方者グループ (更生相談所・リハセンターの判定医・OT/PT・リハエンジニア、ケアマネジャーなど)
- ③製造業者・供給業者グループ (製造事業者、供給事業者・レンタル事業者)

④研究開発者グループ（大学・研究機関など）

の4グループに分け、各グループの参加者は5名とした。それぞれのグループの中の参加者にも多様性があるように人選した。

「1グループ5名」はある種のマジック・ナンバーである。経験的には、少数のグループで討議等をする場合、1グループ5ないし6名が、全員が主体的に参加できる最適な人数である。それ以上多くなると、消極的参加や「さぼり」、疎外が発生し、それ以下であると議論が濃密になりすぎ参加者の負担が課題になったり、議論の内容が偏ったりということが起きる。

（2）アンケート調査の実施

ア）アンケート調査の開始

2012年8月1日に全体ワークショップの概要と参加依頼とあわせて、アンケートの進め方（準備作業の進め方）、参加者向けに整理された参考資料を全体ワークショップ参加者にメールで送付した。それぞれの書面は付録1、2、3に収録する。

イ）第1回アンケートとその結果

第1回アンケートでは、15年後の車いすの利活用の将来の姿（シナリオ）を設定する上で大切にしたいこと（必要な条件）は何かを訪ねた。15年後の車いすの利活用の姿またはそれを表現する言葉を直接質問する方法もあるが、はじめから直接15年後の車いすの利活用の将来の姿を質問することで、他の代替案に対する考慮をせずに、単一の将来像（もしくは将来像の特定の側面）に議論が限定され

る（収斂する）可能性がある。単一の将来像に限定してしまうと、代替案の妥当性の判断が困難になる。そこで、さまざまな代替案を比較考量することで将来像を相対化できるようにするために、最初のアンケートでは将来像そのものについて質問するのではなく、複数の将来像を分類整理するための「軸」の抽出を試みた。どのような軸であっても、軸を組み合わせることで特定の一つに限定されない複数の将来像を抽出する枠組みが用意できる。

具体的な質問は付録4に『「車いすの未来を考える」ワークショップ 第1回準備アンケート』として示した。回答を整理したものは付録5「事前アンケート1の結果」に整理した。

将来像を整理するための軸としては全体で以下に示す9種類の軸が抽出できた。

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none">1. 利用者の個別のニーズ・目的に適合した車いすを選択できる(利用できる、提供する)2. 利用者の社会参加を促進する<ol style="list-style-type: none">2'. ライフスタイルを実現する・生活を広げる(自立を促進する)【処方者、製造業者・供給業者】3. 車いすが社会にとけ込む(車いすが利用しやすい社会環境)
(以上の3項目は全グループ共通)4. 利用者の経済的負担を軽減する【利用者、研究開発者】5. 他者とのコミュニケーションを促進する【利用者、製造業者・供給業者】6. 使いたくなる車いす・プレゼントしたくなる車いす【処方者、製造業者・供給業者】7. 介助を減らす【処方者】8. 利用者の立場でデザイン・機能を考える【研究開発者】9. 国の経済的負担を軽減する【研究開発者】 |
|---|

全グループ共通の軸が3軸、それを含めて、利用者グループで抽出された軸は5軸、処方者グループが5軸、製造業者・供給業者グループが5軸、研究開発者グループが6軸であった。このうち、研究開発者グループで抽出された「国の経済的負担を軽減する」は根拠に基づく専門的分析が必要な項目であり、ワークショップの場で議論するためには参加者があらゆる議論に対応可能になるように事前の学習をしなければならず、負担が大きくなることが予想されること、最終的にシナリオやロードマップが絞られてから検討の方が効率的であることから、将来像を整理する軸としては採用しないこととした。

その結果、将来像を整理する枠組みをステークホルダーごとに設定した。5軸の整理軸の組合せをすべて取り上げると各グループ10パタンのシナリオを検討しなければならなくなるため、回答の簡便性を考慮し、すべてのグループに共通する3軸と固有の2軸の組合せ、すなわち6種類のシナリオを次の第2回準備アンケートで回答してもらうこととした。この組合せは付録5の末尾、および付録6に示した。

これらの分析の経過や結果はすべてのグループの回答データを全参加者にフィードバックした（第2回以降のアンケートについても共通）。

ウ) 第2回アンケートとその結果

第2回アンケートでは、各グループに与えられた6種のシナリオの具体的なイメージ（15年後の車いすの利活用のイメージ）をキーワードや短文で回答しても

らった。

付録6に第2回準備アンケートのうち利用者グループ分を例として示した。他のグループは回答するシナリオの組合せが異なるだけであり、基本的な構造は同じである（組み合わせ方については資料5の末尾に示してあるものと同じ）。

付録7に第2回準備アンケートの結果を示した。付録7はすべての回答からキーワード、キーフレーズを抜き出したものである。回答を求めたシナリオはグループを超えて共通のものもあるので、全体としては13種のシナリオが対象となった。回答が多かった主要なシナリオは6件、このうち5番目と6番目のシナリオは、整理軸の内容が似ているシナリオを統合して設定した。これらの6シナリオ以外には回答が少なかったシナリオが2件、回答がなかったシナリオが1件あった。回答が少なかったシナリオ2件については、今後の検討に際して、「介助の負担（介助者、介助作業、介助操作等）の軽減」を今後すべてのシナリオに共通する目標として考慮し、「利用者の立場でデザイン・機能を考える」は共通的要素として、すべてのシナリオに取り込むこととした。あまりにも多数のシナリオを参加者全員が検討することは困難であるので、最終的に検討対象として6種類のシナリオを残すこととした。

なお、第2回準備アンケートで得られたシナリオに関するキーワード等を簡潔に整理して、それぞれのシナリオのイメージを簡潔な文章にまとめた（第3回準備アンケート調査票：資料8に示す）。

エ) 第3回アンケートとその結果

6種類のシナリオを時間軸に沿ったロードマップとして展開するために、時間軸上で課題となる事項（目標を達成するためには、○年後までにXXを実現、等）に関するアイデアを抽出するために第3回目のアンケートを実施した。付録8に利用者グループ分の調査票を示した。調査では第2回アンケートで得られた結果を示しつつ、①目標を実現する上で課題となる現状の問題点、②目標を実現する上で予想される障害や困難、③シナリオの内容、イメージ、期待等の追加説明、追加したい事項、実現する方法・手段、実現する上での課題等、④その他（シナリオの問題点、シナリオの不明確な点等）について回答してもらうこととした。その際、グループ別の回答だけではなく、全4グループの回答を示すことで、他のグループの回答に対するコメントを回答することもできるようにした。「利用者グループの期待する内容は、このような手段で実現できる」等の回答を記入してもらうことを期待したものである。

すべての回答を整理したものが付録9である。当初の予定では、ここまでの回答を踏まえて、研究会側でロードマップの形に整理し直すことを予定していたが、アンケート調査では回答された項目の軽重を判断することが困難であること、各グループがどのシナリオを重視しているかが必ずしも明確にならなかったこと等に配慮し、ロードマップ化することは取りやめ、回答データを全体ワークショップの場でロードマップを作成する際の出発点として利用してもらうこととした。すなわち、回答は微細にわたるが、全体

ワークショップの議論を通じて、重要な項目は残し、重要でない項目は落とし、新たに追加すべき項目を話し合うためのヒントとして使ってもらったこととした。

D. 「車いすの未来を考える」ワークショップとロードマップの概要

(1) 「車いすの未来を考える」ワークショップのデザインと実施準備

全体ワークショップは以下のようにデザインした。

ア) 会議の目的

1. 福祉用具の一つである車いすを事例として、
2. 福祉用具が障害者の生活の質の向上を効果的に支援できるようになるためには、どうあるべきか、
3. 車いすの利用者から、普及開発に携わる関係者まで、多様な人々がともに検討し、
4. 共有・合意できる15年後のシナリオ(複数)を作成する。
5. また、シナリオを実現するための、技術、制度、財政などの課題を明らかにし、時間軸上に展開したロードマップを作成する。

イ) ロジスティックス

日時: 10月7日(日)、8日(月・祝)

場所: 筑波大学文京キャンパス 4階 432 会議室及び
433~435 ゼミ室

進行:

10月7日(日)

13:00-14:10 全体会議1

趣旨説明

自己紹介

関連する活動の紹介

14:20-15:10 全体会議2

事前アンケートの概要(6事前シナリオ)

会議の進め方、進行予定について

15:30-16:40 グループ討議1

3事前シナリオから2シナリオ作成

(個別要素の関連付け)

(他グループへの質問・期待)

17:00-18:15 全体会議3

シナリオ紹介

Q&A

10月8日(月/祝日)

10:00 集合 432号教室
10:10-11:10 グループ討議2 ロードマップへの展開
11:25-12:15 全体会議4 ロードマップ紹介 Q&A、コメント
12:15-13:15 昼食・休憩
13:15-14:00 グループ討議3 ロードマップ完成 コミットメント、相互協力
14:20-15:30 全体討議5
まとめ
各討議の参加者・補助者:
全体会議:進行役+イラストレータ
グループ討議:
参加者(各グループのメンバー)、5名
ファシリテータ(会議の案内役・時間管理)、1名
イラストレータ(会議のまとめ役・記録係)、1名
会場係(会場運営、参加者の案内など)、1名
運営補助(カメラ撮影、その他の雑用)、1名
エバリュエータ(後述)、1名

趣旨説明、参加者の自己紹介 関連する活動の紹介
全体会議2 会議の進め方、進行予定について説明 グループ討議で議論すべきシナリオの絞り込み
グループ討議1 3つの事前シナリオから、新たに2つのシナリオ を作成
全体会議3 各グループのシナリオ紹介と共有
10月8日(月/祝日)
グループ討議2 ロードマップへの展開
全体会議4 各グループのロードマップ紹介 ロードマップの共有と改善すべき事項の確認 他のグループのロードマップへのコメント
グループ討議3 ロードマップ完成 自らがなすべきことの確認 相互協力が必要な事項の確認
全体討議5 ロードマップの共有 参加者全員の感想・提案・少数意見の表明

ウ) 会議進行のルール

全般的事項:
・すべての全体会議、グループ討議には、時間とゴールが設定される ゴールに向かって会話を進める
・ビデオ記録、音声録音をする 議論の内容の確認等をするため
・カメラ撮影 イラストレーションの経過を記録するため
発言のルール:
・参加者の経験や知識を持ち寄ること 相互理解・相互学習を目指す 一般論よりも具体的な内容を
・参加者は平等な立場で議論します 遠慮なく発言
・発言は短く 一人で時間を独占しない
・先入観にとらわれないで話す 間違っただけを言っても恥ずかしくせずに 面白いアイデア歓迎
・質問することが任務 分からないこと・曖昧なことを残さない

エ) 進行管理

全体会議、グループ討議のそれぞれの到達目標は以下のとおりである。

10月7日(日)
全体会議1

なお、本ワークショップでは、15年後のあるべき姿をシナリオ、現状からそこにいたるために、いつ何をすべきかを表現したものをロードマップと呼ぶこととした。

(2)「車いすの未来を考える」ワークショップの実施経過

(ア) 運営スタッフの役割と事前準備

本ワークショップでは、ファシリテーション・イラストレイティングの専門家(イラストレータ)を全体会議、グループ討議に導入した。これは、短時間の討議で意味のある議論を進め結論に至るために、参加者自身が議論の経過および結果を記録したり、図示したりする作業はせず、討議に集中してもらうためである。イラストレータはグループの討議を記録するとともに必要に応じて参加者に質問を投げかけて議論の明確化や議論の促進を図る役割を担うこととした。

研究会メンバーは、グループ討議のファシリテータとして参加し、時間管理をするほか、イラストレータが理解できない用語に関する助言などを行った。ただし、討議に関しては、議論の明確化のための質問をする程度にとどめ、内容面の介入はしないこととした。

この他に、エバリュエータを1名置いた。エバリュエータは会議の全体を観察し、また休憩時間等を使って、必要に応じて参加者のインタビューを行い、進行上の問題点等を指摘する役割を担う第三者（研究会グループに属せず、参加者とも直接の利害関係を持たない者）である。

ファシリテータは事前にワークショップ全体の進行について複数回の打ち合わせを行い、グループ討議の進め方に違いが生じないように、進行イメージを共有することに努めた。また、イラストレータとも事前に打ち合わせを行い、進行の詳細を共有するとともに、討議に必要な小道具を事前に用意した。とくに、事前アンケートの最終まとめ（付録9）はロードマップの検討に際して参照すべき事項が多数盛り込まれており、議論の出発点になるので、それらのエッセンスを付箋紙に書き出し、模造紙に配置したものを用意しておいた。

（イ）実施経過

ワークショップは、ほぼ予定していたとおりに無事に進行した。参加者の感想から判断すると、参加者にとっては、あまり経験したことのない長時間の意見交換と取りまとめに向けた討議であったが、予定していた時間は、集中した議論ができるほぼ限界であったろうと推察される。

実施経過に課題がなかったわけではない。この点については、主観的な評価をするだけでは妥当性が確保できないので、エバリュエータが観察した事項を、加工せずにそのままの形で付録10に収録しておく。

（3）ロードマップの概要

各グループが最終的に取りまとめたロードマップはワークショップの貴重な成果であるので、そのまま記録として収録しておく。なお、基本的には各グループには2つ以上のシナリオを作成するように要請したが、処方者グループは1つのロードマップのみを作成して終わった。

付録11に各グループがまとめた模造紙の写真、付録12にそれを模式図に直したものの、付録13には、ロードマップの内容を文章化したものを収録した。これは、研究会メンバーがロードマップ作成の途中経過の記録等を参照するなどして、できるだけ正確に意図を表現するように、簡潔に文章化したものである。

なお、付録11、12では各グループをA B C Dで表記してある。その意味は以下のとおり。

- A. 利用者グループ
- B. 処方者グループ
- C. 製造業者・供給業者グループ
- D. 研究開発者グループ

また、付録12、13については参加者にフィードバックし、得られたコメントを反映して、完成させたものである。

（4）ロードマップの後処理と完成

参加者によって作成された7つのロードマップは、何らかの形で共通点や関連する事項があり統合が可能である。そこ

でこれらのロードマップを車いすワーキング・グループにボタンタッチし、専門の見地から用語の整理や、グループ間の共通項などに留意した統合をしてもらった。この結果については別項で述べられる。

E. 総括

今年度実現に至った車いすに関するフォーサイトは、『確かな適合に基づく福祉機器の供給に関する調査研究（厚生労働科学研究費補助金（障害保健福祉総合事業）総合研究報告）』（主任研究者、諏訪基, 2010）で提案された井戸端会議を試行したものである。今回の経験から、以下の事項が了解される。

- ・井戸端会議は実現可能であり、意味のある結論をもたらす
- ・ふだん議論に慣れていない初対面の人たちのあいだでも、一定の準備段階を経て、適切なファシリテーションがあれば、活発に議論することができる
- ・一定の時間制約と到達点を明確にしたステージを何段階か設定することで、一定の時間内で結論に到達できる
- ・多様な参加者がいても、異なる立場のあいだで相互理解が進むと同時に、議論の接点を見いだすことができ、相互作用が生じ、一定の幅の中に議論が収まる
- ・一堂に会して創造的に議論をするのは、1泊2日程度が限界だと思われる
- ・効率的に運営するためには、事前の周到的な準備が必要
- ・事前の準備段階を含めて、井戸端会議の運営は、さまざまな会議手法等を柔軟に組み合わせることが必要
- ・ファシリテーションの能力が必要
- ・参加者数の適切な規模は 20 人程度だろうと思われるので、多様な立場の集団が関与する場合には工夫が必要
- ・議論の経過を即時にビジュアルに示すことは議論を円滑に進めるのに効果的
- ・フォーサイトへの多様な参加者を確保するこ

とには困難が伴う(日程調整等)ので一定の参加候補者プールが常時存在すると効率的
・井戸端会議で得られた結論は、用語などを専門家が再整理することが適当

F. 参考文献

1) 生活支援技術革新ビジョン勉強会(厚生労働省社会・援護局),『支援機器が拓く新たな可能性～我が国の支援機器の現状と課題～』,2008

2) Butter, M., Rensma, A., Boxsel, J. van, Kalisingh, S., Schoone, M., Gelderblom, G. J., Cremers, G., Wilt, M. de, Kortekaas, W., Thielmann, A., Cuhls, K., Sachinopoulou, A. and Korhonen, I., *Robotics for Healthcare – Final Report*, 2008

(http://ec.europa.eu/information_society/activities/health/docs/studies/robotics_healthcare/robotics-final-report.pdf, 2012/02/26)

3) 小林信一, 草深美奈子, 福祉機器利活用のあり方の提示,『障害者の自立を促進する福祉機器の利活用のあり方に関する研究(厚生労働科学研究費補助金(障害保健福祉総合事業)総括・分担研究報告)』(研究代表者・諏訪基), 2011, pp.7-24.

4) 小林信一, 草深美奈子, 福祉機器利活用のためのフォーサイトの設計と実施,『障害者の自立を促進する福祉機器の利活用のあり方に関する研究(厚生労働科学研究費補助金(障害保健福祉総合事業)総括・分担研究報告)』(研究代表者・諏訪基), 2012, pp. 9-27.

付録資料一覧

付録1	「車いすの未来を考える」ワークショップへのご協力をお願い
付録2	「車いすの未来を考える」ワークショップ 準備作業の進め方
付録3	参考資料（事前配布用）（概要）
付録4	「車いすの未来を考える」ワークショップ 第1回準備アンケート
付録5	事前アンケート1の結果
付録6	第2回準備アンケート（利用者グループ）
付録7	第2回準備アンケート 回答のみ
付録8	第3回準備アンケート（利用者グループ）
付録9	第3回準備アンケートの結果整理
付録10	エバリュエータによる観察記録
付録11	各グループがまとめたロードマップ（写真）
付録12	各グループがまとめたロードマップ（整理済み）
付録13	ロードマップの内容

付録1 「車いすの未来を考える」ワークショップへのご協力のお願い(依頼)

「障害者の自立を促進する福祉機器の利活用のあり方に関する研究」(厚生労働省科学研究費科学研究事業平成22-24年度 研究代表者 諏訪基 国立障害者リハビリテーションセンター研究所)では、障害者の自立や社会参加、QOL の向上を図るために、福祉機器が真に効果的に利活用されるための総合的な方策と方策を実現するためのロードマップを提言することを目的としています。この目的のために、多様な関係者の方々に議論していただき、ヒアリングを重ねて参りました。

この研究の一環として、車いすを事例とし、車いすの利用者、研究開発者、医療関係者、製造・供給事業者など多様な立場の関係者に一同にお集りいただき、15年後を視野に未来の車いすの利活用のあり方(シナリオ=求められる将来像)、および実現するための道筋(ロードマップ=シナリオの実現のための課題等について時間軸を考慮した計画)についてご議論していただきたく、別紙の要領でワークショップを計画しております。

10月7日(日)、8日(月・祝)に筑波大学東京キャンパス(東京都文京区大塚、地下鉄丸ノ内線茗荷谷駅近く)で再開するワークショップへのご参加とともに、事前のメールでの情報交換(アンケート)にご参加をお願いしたく存じます。貴重なご意見を伺いたく、是非ご協力賜りますようお願い申し上げます。

添付資料

(資料1)「車いすの未来を考える」ワークショップ (開催計画)

(資料2)参考資料(事前配布用)(概要) ver. 120731

本件担当者(お問い合わせ)

宛先:小林信一(研究分担者、筑波大学・教授)

e-mail: 

(資料1)「車いすの未来を考える」ワークショップ (開催計画の概要)

1. ワークショップの目的

福祉用具の一つである車いすを事例として、福祉用具が障害者の生活の質の向上を効果的に支援できるようになるためには、どうあるべきか、車いすの利用者から、普及開発に携わる関係者まで、多様な人々とともに検討し、共有・合意できる15年後のシナリオを作成する。

今後、シナリオを実現するための、技術、制度、財政などの課題を明らかにし、ロードマップを作成する。

2. 日時・場所

日時:10月7日(日) 12:45 集合 13:00 開始 18:15 終了

10月8日(月・祝) 10:00 開始 15:30 終了

※詳細なスケジュールについては、9月中旬にお知らせいたします。

場所:筑波大学文京キャンパス (最寄り駅:東京メトロ丸ノ内線茗荷谷駅) (別紙地図参照)

4階 432会議室(広い)、ゼミ室 433、434、435 控室 431(やや広い)

(http://www.tsukuba.ac.jp/access/bunkyo_access.html)

3. 交通費等

特別の事情のない限り、規定にしたがって、交通費・宿泊費を支給いたします。薄謝ですがお礼も差し上げる予定です。

※なお、休日の開催のため、ご自宅からの交通費を計算してお支払いすることになります。ご自宅の住所・最寄り駅をお知らせいただいていない場合は、個別にご連絡いたしますので、お知らせください。

4. ワークショップの概要

事前のメールでの情報交換に基づいて、全員での議論、グループでの議論を繰り返します。2日間の討議を通じて、皆さんで共有できるシナリオとその実現のためのロードマップの候補を決めます。

グループは、

- ①利用者グループ (電動・手動車いす利用者、介護関係者)
- ②処方者グループ (更生相談所・リハセンターの判定医・OT/PT・リハエンジニア、ケアマネジャーなど)
- ③製造業者・供給業者グループ (製造事業者、供給事業者・レンタル事業者)
- ④研究開発者グループ (大学・研究機関など)

の4グループに分かれます。各グループの参加者は5名の予定です。

結果は、研究会で整理して、参加者の皆さんの提案として、今後開催されるシンポジウム(開催日程、場所未定)などの場で発表し、さらに広範にご意見を伺い、よりよい提案にしていく予定です。

5. メールでの情報交換(事前準備)

全体ワークショップに向けて8月から9月にかけてメールで情報交換していただきます。担当者からの質問に対して、適宜お答えいただくことで、皆様のお考えのポイントを整理します。

メールを通じた情報交換、意見交換の主な目的は、いくつかのシナリオ候補を抽出することと、その実現の上で課題になりそうなことを、できるだけ幅広くリストアップしていただくことです。

基本的には、担当者からの質問に答える形で進行するので、ときどきアンケートに答えるようなつもりで気軽に参加してください。

※追加の情報提供等も歓迎いたします。このため、現在メールリストの整備中です。準備ができましたらお知らせいたします。

6. 注意事項

・事前の情報交換、全体ワークショップのいずれも非公開で実施します。

・誰が何を言ったかを特定するような形でまとめることはしませんが、議論の成果は、参加者全員で作るシナリオ及びロードマップとして提言したいと考えています。

・内容に関しては、皆さまのご了解を得てから講評します。

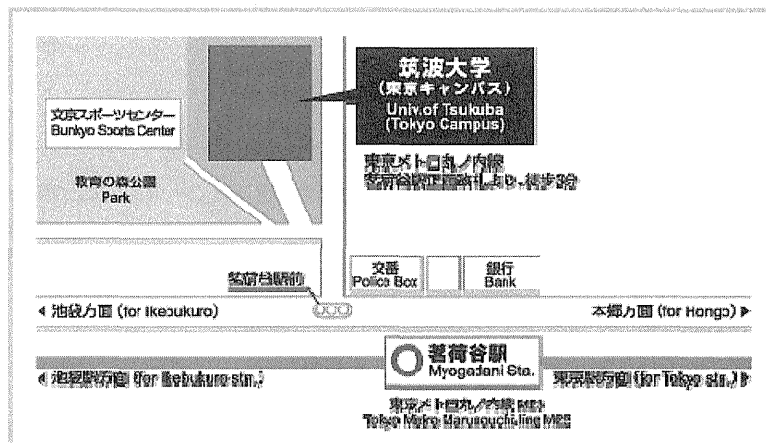
・なお、参加者として氏名等を公表していい場合は、その方法についてご相談してから、貢献者として氏名を収録させていただきます。

・非公開を原則としていますので、議論の内容やお互いにプライバシー、個々の意見等については良識のある取り扱いをお願いします。その上で、少しでも気にかかること、ちょっとした思いつきなど、遠慮せずに存分に意見を表明していただければ幸いです。組織の立場ではなく、個人としての意見、考え方をお願いします。

7. 成果の活用

みなさんと議論してまとめた内容については、報告書に取りまとめるほか、シンポジウム(開催時期、場所未定)等で提言し、さらに幅広い人々のご意見をいただくことを予定しています。

会場案内図



東京駅から茗荷谷まで地下鉄丸ノ内線で10~12分程度です。

会場は4階です。正面玄関右手にエレベーターがありますのでお使いください。

※自動車でお出でになる場合

あらかじめお知らせください(すでにお知らせいただいている場合は結構です)。守衛所へ連絡しておきます。当日は「研究会参加」の旨お申し出いただき、入構してください。

付録2 「車いすの未来を考える」ワークショップ 準備作業の進め方

ワークショップ開催までに3回の準備アンケートを実施します。順を追って簡単なアンケートを実施することで、皆さんでアイデアを出し合い、情報交換をし、ワークショップの議論の土台となる資料を整理していきます。3回のアンケートにご協力ください。

各アンケートのねらいと時期は以下のように予定しています。なお、アンケートの見本は次ページ以降をご覧ください。

今後の進め方は以下のように計画しています。

第1回準備アンケート 8月1日頃発送 8月8日頃締め切り
【ねらい】「15年後までの将来の姿を設定する上で大切にしたいこと」(未来軸)の抽出
↓
【事務局での整理】グループごとに結果を整理して、全体に提示
↓
第2回準備アンケート 8月10日頃発送 8月23日頃締め切り
【ねらい】シナリオのもとになるイメージの抽出
↓
【事務局での整理】グループごとに結果を整理して、簡単な文章化、結果を全体に提示
↓
第3回準備アンケート 8月29日頃発送 9月14日頃締め切り
【ねらい】シナリオごとの課題を時間軸に沿って抽出(ロードマップづくりのもとになる要素の抽出)、この段階でのシナリオの優先順位の感触を得る
↓
【事務局での整理】グループ別整理、グループを越えて統合可能なシナリオ候補の検討、ワークショップで検討すべきシナリオを数点に絞り込むための案を作成
↓
ワークショップの前に配布
↓
ワークショップで、グループ別討議、全体討議

次ページ以降は見本です。

今後お答えいただくアンケートのイメージです。

「車いすの未来を考える」ワークショップ 第1回準備アンケート 2012年8月1日

以下では、将来における車いすの利活用のあり方について、簡単な質問にお答えください。ご自身の立場や経験に基づいて、ご回答ください。会社や組織の見解ではなく、個人的な印象やイメージ、期待などをご回答ください。

質問01 15年後までの将来の姿(シナリオ)を設定する上で大切にしたいこと(必要な条件)は何ですか。もっとも大切にしたいことを2件程度(最大3件まで)お書きください。

(例) 利用者の社会参加を促進する、利用者の経済的負担を小さくする、車いすを高機能化してより便利なものにする、車いすをカッコいいものにする、等々

①	
②	回答していただくのは色のついたマスだけです
③	

(記入スペースは、適宜、拡大してください)

上記回答の理由やその他のご意見がありましたらお書きください。

--

ご回答は、ml-rikatsuyou@rehab.go.jp 8月8日までにお送りください。

【この質問は各グループのシナリオを描くための枠組を作るために用いられます】

「車いすの未来を考える」ワークショップ 第2回準備アンケート

2012年8月10日

前回の質問01では、グループごとに、以下のような回答をお寄せいただきました（文章表現は事務局で揃えさせていただきました。ある程度似たものはまとめました）。

グループ	大切にしたいこと（記載の多いものから順に）
①利用者グループ	・ ・
②処方者グループ	・ ・
③製造業者・供給業者グループ	・ ・
④研究開発者グループ	・ ・

以上の皆様にご回答いただいた項目の中から、「15年後までの将来の姿を設定する上で大切にしたいこと」（以下では「未来軸」と呼びます）を、グループごとに2件抽出しました（青字で表示。同数の場合は、事務局で選ばせていただきました）。

質問02 下の表は、「15年後までの将来の姿を設定する上で大切にしたいこと」（未来軸）を組み合わせたものです。それぞれのマスに当てはまる15年後（または途中の適当な時期）の「車いす利活用」に関するイメージをお書きください。期待したいこと、メリット、デメリット、限界など思いつくことを、キーワードや箇条書き等の形でお書きください。よい側面だけでなく、望ましくない可能性などを書いていただいても構いません。

		カッコイイ車いすを追求する	
		(+) カッコいい車いすを追求	(-) 実用本意のデザインや機能を追求
車いす で、利用 者の社会 参加を促 進する	(+) 促進 する		
	(-) 現状 程度		

（記入スペースは、適宜、拡大してください）
（今すぐに期待したいことを指摘していただいてもかまいません）
（空欄があっても構いません）

質問03 その他ご意見・ご希望があれば、どのようなことでもかまいませんので、お知らせください。

ご回答は、ml-rikatsuyou@rehab.go.jp 8月23日までにお送りください。

【この質問に基づいて、グループごとに3～4のシナリオ案を整理します。

「車いすの未来を考える」ワークショップ 第3回準備アンケート

2012年8月29日

前回の質問02でいただいた回答を、グループごとに整理して、事務局で文章化してみました。

グループ	シナリオ		
	1	2	3
①利用者グループ	【未来軸の組合せ】		
	【キーワード】		
	【説明】		
②処方者グループ			
③製造業者・供給業者グループ			
④研究開発者グループ			

質問04 それぞれのシナリオについて、追加したい・修正したいキーワード（期待したいこと、メリット、デメリット、限界など）、いつまでに何を実現すべきか、解決すべき課題は何か、思いつくことをキーワードや箇条書きで記入してください。

他のグループのシナリオも着想のヒントにしてください。

すべてを埋める必要はありません。思いつく範囲で記入してください。

〇XXXXグループ シナリオ-1	
【未来軸の組合せ】	XXXX (コメントや追加したいキーワードなどをお書きください)
【キーワード】	YYYY (コメントや追加したいキーワードなどをお書きください)
【説明】	ZZZZ (コメントや追加したいキーワードなどをお書きください)
今すぐに実現すべきこと・解決すべきこと・課題	
今後5年くらいのあいだに実現すべきこと・解決すべき	

こと・課題	
今後10年くらいのあいだに実現すべきこと・解決すべきこと・課題	
今後15年くらいのあいだに実現すべきこと・解決すべきこと・課題	
時期は特定しない／できないが、検討しておくべき課題	
その他なんでも	

○XXXXグループ シナリオ-2	
【未来軸の組合せ】	XXXX (コメントや追加したいキーワードなどをお書きください)
【キーワード】	YYYY (コメントや追加したいキーワードなどをお書きください)
【説明】	ZZZZ (コメントや追加したいキーワードなどをお書きください)
今すぐ実現すべきこと・解決すべきこと・課題	
今後5年くらいのあいだに実現すべきこと・解決すべきこと・課題	
今後10年くらいのあいだに実現すべきこと・解決すべきこと・課題	
今後15年くらいのあいだに実現すべきこと・解決すべきこと・課題	
時期は特定しない／できないが、検討しておくべき課題	
その他なんでも	

○XXXXグループ シナリオ-3	
【未来軸の組合せ】	XXXX (コメントや追加したいキーワードなどをお書きください)

【キーワード】	YYYY (コメントや追加したいキーワードなどをお書きください)
【説明】	ZZZZ (コメントや追加したいキーワードなどをお書きください)
今すぐ実現すべきこと・解決すべきこと・課題	
今後5年くらいのあいだに実現すべきこと・解決すべきこと・課題	
今後10年くらいのあいだに実現すべきこと・解決すべきこと・課題	
今後15年くらいのあいだに実現すべきこと・解決すべきこと・課題	
時期は特定しない／できないが、検討しておくべき課題	
その他なんでも	

質問05 上記以外のシナリオを提案したい場合は、以下にお書きください。

○XXXXグループ 追加シナリオ	
【未来軸の内容・組合せ】	(シナリオの簡単な説明をお書きください)
【キーワード】	(シナリオをイメージするためのキーワード等をお書きください)
【説明】	(シナリオの簡単な説明をお書きください)
今すぐ実現すべきこと・解決すべきこと・課題	
今後5年くらいのあいだに実現すべきこと・解決すべきこと・課題	
今後10年くらいのあいだに実現すべきこと・解決すべきこと・課題	
今後15年くらいのあいだに実現すべきこと・解決すべきこと・課題	

きこと・課題	
時期は特定しない ／できないが、検討 しておくべき課題	
その他なんでも	

質問06 グループのシナリオについて、あなたが望ましいと思う順番、実現性が高いと思う順番をお答えください。

シナリオ	望ましいと思う順番	実現性が高いと思う順番
①		
②		
③		
(追加)		

質問07 他のグループのシナリオに対する感想、ご意見等がありましたら、お書きください。

--

質問08 その他ご意見・ご希望・ご感想があれば、どのようなことでもかまいませんので、お知らせください。

--

ご回答は、ml-rikatsuyou@rehab.go.jp 9月14日までにお送りください。

【この質問の結果を整理して、10月のワークショップの前にお送りします。ワークショップでは、それをもとにしてシナリオ、ロードマップの素案を検討します】

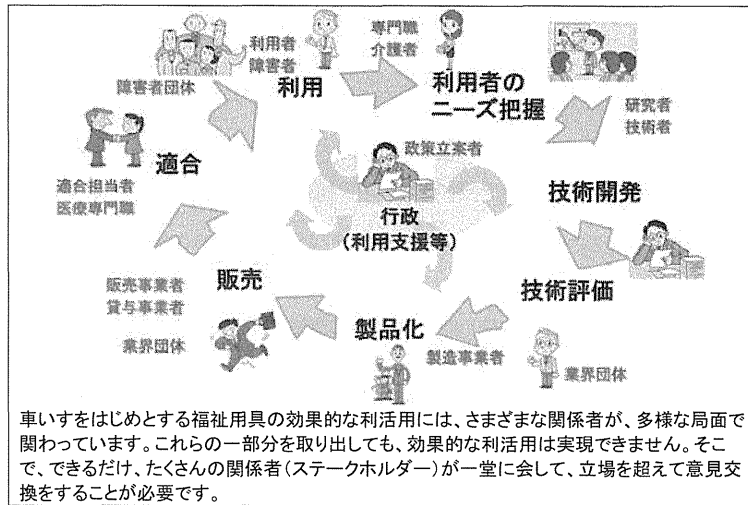
付録3

「車いすの未来を考える」
 (資料2)参考資料(事前配布用)(概要) ver. 120731

問題認識

車いすをはじめとする福祉用具の効果的な活用は、障害者の自立や社会参加、生活の質の向上に欠かせません。しかし、福祉用具を必要としている誰もがそれぞれのニーズに即した福祉用具を容易に入手でき、適切に使用できるような体制が整っているのか、また、安全基準、費用負担などの制度は十分なのか、そもそも福祉用具の研究開発は、障害者の特性や、生活状況、ニーズを的確に把握できているのか、常に、検証が必要です。福祉用具が効果的に活用され、利用者の生活の質の向上に寄与するためには、福祉用具の技術開発から利用者の手に届き、アフターケアを含めたそれぞれのプロセスにおいて、課題を抽出し、改善していかなくてはなりません。

今回のワークショップにおいては、福祉用具の中でも特に車いすを事例として、利用者、処方者、製造業者・供給業者、研究開発者の方々にお集まりいただき、車いすの効果的な活用を進めるためには、どのような仕組みが必要か議論していただきます。



これまでに指摘されている課題の例:

- 利用者の声
- ・1台目の車いすは、自分のニーズがわからず、周囲の人にゆだねてしまう。身体に合わなくても乗り続けてしまう。
 - ・買い換えは6年に一度と一律ではなく活動状況を見て必要性を評価してほしい。
 - ・判定の日の体調によって結果が変わってしまう。
 - ・生活状況や身体状況も含めて長期的に見てくれる人がいない。
 - ・判定の場所、日が限られている。ケースワーカーを経由して予約。1、2か月先になる。
 - ・公費の手続きは時間がかかる。待てずに自己負担することも。
 - ・公費でまかなえていない部分が多い。
 - ・修理費用の申請も時間がかかるので自費でやってしまう場合が多い。自費で購入した車いすの修理も自己負担。
 - ・路面の片流れ、異物が車輪に絡まる、踏み切りで線路の溝に車輪がはまるなど、日々の生活の中で危険を感じる状況が多々ある。満員電車の移動で、操作バーが動いてしまい、誤作動することがある。バッテリーが切れて突然動かなくなったことも。これらの不安がストレスとなる。
 - ・性能が上げれば重量も上がる。航空会社の重量制限を超過してしまい、追加費用を請求された。エスカ

- ル(階段昇降機)も重量制限がある。
- ・前後の幅が問題になることもある。7人乗りエレベーターやエスカレーターなど。
- ・車いすの人が海外に出る機会も増えるので国際規格があればよいと思う。

車いすメーカーの研究開発者の声

- ・安全性をフォローするための具体的な仕組みがない。定期点検を制度化してほしい。不具合が生じるまで乗り続けてしまう利用者が多い。
- ・修理など部品交換する際に、交換部品代は補装具支給制度で支給されるが、交通費・技術料は支給されず赤字となってしまう。
- ・モニター品やサンプル品の要望があるが、コスト負担が大きく、すべての要望に応えるほど多く製作できない。
- ・車いすの構成部品は、モデルチェンジなどにより新しい物や改良品が出ている。補装具支給制度で支給する項目を定期的に見直して欲しい。一度、総ざらいする必要があると思う。
- ・機器開発のための研究助成制度への要望として、販売価格を下げるために、金型費や溶接加工費の助成があるとありがたい。絶対数が少ないので、割り掛け金が大きくなる。
- ・ニーズに応える開発をするためには、処方者と定期的なミーティングをすることが必要だと思う。
- ・福祉機器開発に特有の課題として、臨床評価が難しい。実施前に倫理審査が必要であり、手続きが煩雑。

車いすメーカーの営業担当者の声(主に高齢者向け手動車いす)

- ・手動車いすの市場規模は、まだ小さい。耐久年数も長い。利用者の生活の質の向上のためには、新しい製品を出していきたいが、レンタル事業者は、利益を上げるために古いものを長く使い続けがちであり、安いものを好む傾向がある。
- ・ケアマネジャーの中には車いすはみんな同じと考えている人も多い。もう少し興味を持ってほしい。
- ・高齢者にも車いすに乗ることがわかりやすくだけでなく、行動範囲が広がることを理解してもらいたい。福祉用具で自立度が向上するのに、ヘルパーを利用する方が選ばれがち。
- ・メーカーとして事業者に症例を含めて商品説明しているが、その先の事業者が福祉用具専門相談員やケアマネとどうコミュニケーションするかが課題。
- ・JIS認証の取得にはコストがかかるが、メリットが少ない。
- ・身体のラインに沿った調整はかなりできたが、幅、高さ、奥行きを簡単に調整できるようにしたい。共通部品で組み合わせやすくカスタマイズできるようにすれば、メーカーとしてもコストダウンできるし、業者にとってもたくさん在庫を持たなくてよくメリットとなる。高齢者のニーズも多様なので、対応していくのが課題。

車いすワーキンググループでの意見

- ・車いすの支給判定には、利用者、処方者、供給業者が利用者の実生活のイメージをしっかりと持つことが重要。生活環境の場面において、試用評価できるとよい。
- ・車いすの利用者が生活場面に応じた適正な使い方、車いすの基本的な構造や調整方法を理解しておく必要がある。利用者が学べる機会を整備するべき。
- ・安全に継続して使用するためのアフターサービス、定期点検のシステムを、人材育成を含めて整えるべき。
- ・開発者が利用者の実生活に即したニーズを把握するために、利用者・適合支援者参加型の開発システムが必要。
- ・自治体によって格差がある。

これまでに指摘されたニーズの例:

- ・姿勢が傾いたときに元に戻せる車いす用クッション、あるいは制御装置
- ・リクライニング車いす用の雨具
- ・福祉用具選定のために「お試し券」のようなものを5枚給付してほしい。

(出典:産業技術総合研究所 関西センター(2010)「近畿地域における革新的な医療福祉機器開発に関する調査研究報告書」)http://unit.aist.go.jp/kansai/innovation/report201003.pdf

開発ビジョンの例: 重度障害者の自立移動実現のための技術

- ・不明瞭な音声でも認識できる技術(音声操作)
- ・運動障害のある方の動きでも認識できる技術(ジェスチャー操作)

・微弱な筋電でも検出できる技術（筋電操作）

・微弱な力でも検出できる技術（微力操作）

安全性を高め行動範囲を広げるための技術

・危険を察知する技術（全方位ステレオビジョン）

・情報・通信技術と移動機器との融合（オンデマンドバス、交通システムとの連携）

・悪路走行、階段昇降が可能な技術

（厚生労働省社会援護局 生活支援技術革新ビジョン勉強会報告（2008）「支援機器が拓く新たな可能性」pp47-48）

付録4

「車いすの未来を考える」ワークショップ 第1回準備アンケート

2012年8月1日

以下では、将来における車いすの利活用のあり方について、簡単な質問にお答えください。ご自身の立場や経験に基づいて、ご回答ください。会社や組織の見解ではなく、個人的な印象やイメージ、期待などをご回答ください。

質問01 車いすの利活用の15年後までの将来の姿（シナリオ）を設定する上で大切にしたいこと（必要な条件）は何ですか。もっとも大切にしたいことを2件程度（最大3件まで）お書きください。

（例）利用者の社会参加を促進する、利用者の経済的負担を小さくする、車いすを高機能化してより便利なものにする、車いすをカッコいいものにする、等々

①	
②	
③	

（記入スペースは、適宜、拡大してください）

上記回答の理由やその他のご意見がありましたらお書きください。

--

ご回答は、ml-rikatsuyou@rehab.go.jp へ、8月8日までにお送りください。

【この質問は各グループのシナリオを描くための枠組を作るために用いられます】

【回答はグループとして整理します】

付録5 事前アンケート1の結果

Q. 車いすの利活用の1.5年後までの将来の姿(シナリオ)を設定する上で大切にしたいこと(必要な条件)は何ですか。

【回答の整理】

黄色マークは、シナリオを設定する上で大切にしたいこと・必要条件に該当する記載

※は包括的コメント

利用者グループ (回答者4名)

- 成長していく子供が、車いすを利用する際に抱える様々な問題を、長期的にトータルでサポートしてもらえる仕組み。
- 経済的負担の軽減。
- 転倒防止の技術がよくなってほしい。
 - 同色の地面で段差高さを見誤り転倒し、顔に怪我した経験がある。
 - 路面左右の片傾斜をはっきり認知することができず、突然バランスを崩し転倒しそうになることがよくある
- 一般的なものであれば、ほとんどのテーブルに入れる車椅子がほしい。
 - 食事、学習などの時、車椅子にテーブルを取り付けるのでなく既存のテーブルに対応できるようにしてほしい。
 - 友達と一緒にテーブルを使うことでコミュニケーションもとりやすくなり、狭い場所にも入れるようになる。
- 転倒防止以外で必要と感じる技術は
 - 急速充電でき長距離を走行できる小さいバッテリー
 - 前輪も回し砂利道や芝生も滑らず走れる小さく強いモーター
 - 危険を回避する衝突防止技術

※どの技術も今の大学生活(授業、サークル、合宿)を含め、社会活動の経験から必要と感じたもので、車椅子の改良は障がい者の社会参加につながっていくと考えています。

- 室内用と外出用など、用途によって使い分けたいので2台ほしいと思っても、現行の制度では受け入れてもらえない。利用者のニーズに沿った福祉制度であってほしい。
- 街の自転車屋さんでも、気軽に購入したり簡単な修理を依頼したりすることができるようにしたい。今はパンク修理であっても身構えられることが多い。

※この段階でも、より多くの方の意見を集めた方がいいのではないだろうか。

このグループの5人の意見がすべてではないと思います。

- 「完全参加と平等」を促進する、実現するような車いす
- 15cm程度の段差を乗降できる、20分程度で急速充電できるバッテリーを持つ電動車いす
- 下肢だけでなく、上肢の機能も補助する電動車いす

処方者グループ (回答者5名)

- ご本人がご自分の障害状況を理解し、Drや専門職、業者と一緒に相談して車椅子の作製をする。
 - 高機能な車椅子も基準内に入れていく(実際に使い勝手がどうかは評価必要)
 - 厚生労働省の基準額表の修理基準などが毎月更新され、市場価格との乖離がないようにする。
- ※用具(車椅子)の導入により人の手の介助が減ったり、ご本人の生活が広がったりできれば、質的にも経済効果的にも有効だと思います。

- 利用者が車椅子を選択することができる。
 - 個々に適した車椅子が利用できる。
 - 車椅子が利用できる社会的環境を整える。
- ※ユーザーが判断できるような情報提供の仕方が大切。補装具制度でもレンタルを取り入れることを検討。

- 安全が保証されており、メンテナンスがしやすいこと
- 車いすを必要とする時に、自分にあつたものを選択できる「わかりやすい相談システム」があること

- 自己で車いすの管理が出来るようにする。
 - 車いすの機能や仕組みを本人や介護者にどのように伝えるか、部品の供給システムをどうするか、高機能品の開発などが課題となる
 - 使用環境や利用目的に応じて、簡便に機能を変えられるようにする。
 - 環境：和式、洋式 目的：屋内外、歩行者、車利用 等々
- ※デザインや配色など、見た目の格好良さはもちろん重要であると思いますが、使い勝手についても、もっと改良が必要であると常々思っております。

- 車いす利用者が社会で自然に溶け込んだ生活ができるように車いすに変わる歩行機能補助装置の開発。
- 上記が難しい場合、まずはローコストの歩行機能障害者を対象とする小型4足歩行移動機器の開発を促進する。

※社会では車いす使用者が町中で目立つ存在のように感じる。座位での生活空間を強いられる。意識・環境・機器開発の面でバリアを取り除くことができる機器開発が求められる。装着感が自然。使いたくなる機器。階段も踏破できる。など

製造業者・供給業者グループ (回答者4名)

- 便利な道具としての位置づけ
- デザイン性を含めプレゼントしたくなるような車いす
 - 車いすは自立を促すことも含め非常に便利な道具です。便利な道具であるからこそ「使いたい」「使ってもらいたい」。使い勝手、かつデザインの良い車いすであればプレゼントしたくなると思います。

- 利用者の希望する物また必要とされる機能(チルト、チルト&リク、等)の車椅子を一定期間貸し出し(レンタル)して判定
 - お試しにて、数ヶ月利用して、機能的なものの、追加、不必要などを確認 レンタル料は、発生します。
- 判定後納品された車椅子(座位保持付車椅子。特例車椅子、電動車椅子)ある程度の使用時間後(3ヶ月~6ヶ月)使用状況の再判定
 - 利用者の状態により期日を設定する。(セラブスト、リハエンジニアより確認)
- 納品された車椅子の定期点検
 - 6ヶ月、12ヶ月、耐用年数内に数回点検、点検1回あたりの費用をだす。

- 利用者の社会参加の実現
- 車いす仕様の個性性の向上

- 個々の希望するライフスタイルを実現(選択)できるモノであり、前向きな気持ちを引き出すもの。(ライフスタイルに合わせた機能の選択ができるために、様々な機能、個性を持った車いすのバリエーション)

- 社会との接触を増やすことができるもの。(外に出かけたいもの、人とのコミュニケーション)

ョンバリアを外せるもの)

※日本再生へ経済や産業の回復もあるが、同時に生き活きた高齢者や障害者が元気に住む日本になることがその要素でもある。その元気は、その人の個を大切にしながら社会、人との関わり、絆が深まること。

その方の存在が必要とされている（尊厳が守られる）ことが一番元気がでる。受け身の人生から、出来る人生、更には与える（他に貢献できる）人生にステップアップ出来るようになることを目指す。

それらは制度や環境、システムも大きく関係するので、平行して取り組む必要があると考える。

研究開発者グループ（回答者5名）

- 利用者の経済的負担を小さくするための補助制度を整備すると共に、低コストを意識しつつ高機能化して車いすをより便利なものにする
- 車いすのデザインを見直してカッコいいものにし、関連法規制（道路交通法、道路運送車両法）の改正により、歩道を走れるようにする
- 車いすが安全に走行できるように、歩道や専用道の整備や情報提供に係るインフラの整備をする

- 本人の生活に適合する車いすを少ない負担で入手できること
- 移乗、移動、姿勢という車いすの機能で適合できるシステムがあること
- 本人の生活に適合する外用と室内用の2台を入手できること

- 目的に応じた車いすが多様に用意（開発）され、それを活用しやすい環境（経済的なものを含む）を整える。
- 車いすのまま利用できる様々な機器（着脱式補助動力、パーソナルモビリティなど）が数種類あって、好みによって選んで利用できるようにする。

- 車椅子利用者の立場で考えたデザイン・機能が必要。
 - 現状のバイクに布貼りタイプはあくまで介助者目線で考えられたもの。車椅子利用者は、座り心地が悪い、見た目もかっこ悪いものを強いられてきたと思います。
- 車椅子利用者が自立して移動できるような超小型車と自動合体して動き回り、施設内では車椅子で動き回れるような車と車椅子で機能を補完して使い勝手がよく、コスト面でも負担が少ない車椅子と車。
 - 現状のウェルキャブ車は高価で、介助者の手助けが必要。もっと、自立して遠くまで動き回れて、安価な移動体を提供とともに、車椅子側にも自動で車と連携合体できる機能を載せたい。
- 家庭内から屋外までシームレスに乗り換えることなく移動できる車椅子。家はEVを前提としたビルトインガレージがある。
- 是非車椅子が自動でエスカレータの乗降できるようにしたいと思います。
 - エレベータに乗りたくないというユーザーの方が多いようです。エレベータの前で待たなくて済むし、エレベータ内で気兼ねをすることが無くなる。

- 利用者の経済的負担を小さくし、かつ国の財政の負担も小さくできるような民間活力の導入
- 安全性確保、選定、適合、試用、トレーニングといった利用までの流れについて、さまざまなタスクフォースが、チームとして一貫して携わる仕組みづくり
- IT・RT技術の応用による高機能化（ただし、利用者の実態を知らない当該大手企業の安易な参入は避ける）

※踏襲主義・専門職の不在という、縦割り行政の余計な口出しによる市場の混乱・給付地域間格差の存在が車いすの適正な選択・供給のバリアとなっている。このバリアを解消するために、民間によるワンストップ供給センターの構築が必要。



事前アンケート1では、シナリオを考える上で大切にしたいことや必要条件・目標が指摘されましたが、むしろシナリオの内容そのものに関する回答が多数ありました。回答の中からシナリオを考える上での条件や目標を抽出し(黄色でマーク)、以下に整理します。

1. 利用者の個別のニーズ・目的に適合した車いすを選択できる（利用できる、提供する）
【利用者、処方者、製造業者・供給業者、研究開発者】
2. 利用者の社会参加を促進する
【利用者、処方者、製造業者・供給業者、研究開発者】
 - 2'. ライフスタイルを実現する・生活を広げる（自立を促進する）
【処方者、製造業者・供給業者】
3. 車いすが社会にとけ込む（車いすが利用しやすい社会環境）
【利用者、処方者、製造業者・供給業者、研究開発者】

（以上の3項目は全グループ共通）

4. 利用者の経済的負担を軽減する
【利用者、研究開発者】
5. 他者とのコミュニケーションを促進する
【利用者、製造業者・供給業者】
6. 使いたくなる車いす・プレゼントしたくなる車いす
【処方者、製造業者・供給業者】
7. 介助を減らす
【処方者】
8. 利用者の立場でデザイン・機能を考える
【研究開発者】
9. 国の経済的負担を軽減する
【研究開発者】

注）社会的経済性に関しては、ワークショップ後に事後的に検討する予定なので、ここでは省く